

令和6年度 授業づくりシート

教科名 自立活動 | 学年 1

単元名	「よく見て行動しよう～集中する時間を増やそう～」	
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> 自分の順番の時に足元に注視し続けながら歩くことができる。 手元に注視しながら活動に集中して取り組むことができる。 	
児童の実態	A児	個人情報のため省略
児童の個別目標	A児	<ul style="list-style-type: none"> 本時のやることがわかり、落ち着いて活動に取り組むことができる。(環境の把握、心理的な安定) 足元や手元に注視しながら活動に取り組むことができる。(環境の把握)

○活動内容と具体的な手立て

活動内容	児童の予想される言動	具体的な手立て
・始めのあいさつ	・全体への言葉かけだけでは着席が難しく、立ち歩くことが予想される。	・座ることを促すイラストを提示し、児童の足の下に足形を置き、座れるように個別に言葉かけを行う。
・「注目して歩こう！」(活動前半)	<ul style="list-style-type: none"> 活動内容がわかると自ら取り組むことができる。 順番を守れないため、自分の順番でないときに立ち歩き、活動しようとするのが予想される。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎回同じ内容で取り組む。 教師が事前に手本を見せてから取り組む。 「右・左」と言葉をかけながら、歩行箱の足を入れる場所を指さして誘導する。 できた場合は称賛する。 順番がわかるように今活動している人の写真を提示しておく。 個別に言葉かけや立たないように隣に座り支援を行う。
・「注目して取り組もう！」(活動後半)	<ul style="list-style-type: none"> 活動内容がわかると取り組むことができる。 集中力が切れたり、課題が終わってしまったら立ち歩こうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 本人が一人でできる課題に取り組む。 手元に注目できるように見えないときでない課題を用意する。 タイマーを使い終わりの時間がわかるようにする。 課題をたくさん用意する。 集中が切れたときに個別に言葉かけをする。
・終わりのあいさつ	・全体への言葉かけだけでは着席が難しく、立ち歩くことが予想される。	・座ることを促すイラストを提示し、児童の足の下に足形を置き、座れるように個別に言葉かけを行う。

○展開

時配	活動内容と教師の支援	該当児童
1分	<ul style="list-style-type: none"> 座ることを促すイラストを提示し、児童の足の下に足形を置き、座れるように個別に言葉かけを行う。A児 挨拶する姿勢を確認する。 	
1分	<ul style="list-style-type: none"> ○始めの挨拶 出席確認をした後B児と一緒に挨拶をする。 	
1分	<ul style="list-style-type: none"> ○今日のやることの確認 今日の流れを説明する。 ホワイトボードに提示してある日程表を指しながら確認する。 	
10分	<ul style="list-style-type: none"> ○「注目して歩こう！」 歩行箱とトランポリンを用意し、教師が初めに手本を見せる。 上履きと靴下を脱いでから、活動を行う児童を順番に呼ぶ。 活動している児童の写真を提示しておく。A児 活動の見通しがもてるように毎回同じ音楽を流しながら活動する。(身体づくりの曲。) 名前を呼び、写真を提示して活動を行う児童を順番に呼ぶ。 「右・左」と言葉をかけながら、足を入れる場所を指さして誘導する。A児 その場を離れてしまう場合には、隣に座り個別に言葉かけ隣に座り支援を行う。A児 	
1分	<ul style="list-style-type: none"> (活動切り替え中) 上履きを履いて、机に座る。 自分の場所がわかるように写真を置いておく。 課題もかごの中に入れて置きすぐに取り組めるようにする。 	
6分	<ul style="list-style-type: none"> ○「注目して取り組もう！」 児童それぞれの課題に取り組む。 手元に注目できるようによく見て取り組める課題を用意する。 集中力が切れて立ち上がろうとしたときには、課題の続きをするような言葉かけをする。 タイマーを使い終わりの時間がわかるようにする。 	
1分	<ul style="list-style-type: none"> ○終わりの挨拶 挨拶する姿勢を確認する。 B児と一緒に挨拶をする。 	

○児童の授業に取り組む様子

A児	<ul style="list-style-type: none"> 流れはよくわかっていて、「注目して歩こう」になると自分から上履きと靴下を脱いで用意をすることができた。歩行箱の高さを変えたり、足を入れる部分を狭くしたりすることで、見ないと足が引っかかることがわかり、足元を見ながら歩くことができていた。最後にトランポリンを設置したことでやる気が出ている。 個別の活動では、できる量を用意したことやいつもやっている活動に取り組んだことで、手元をよく見て集中してできていた。
----	---

<p>グループ全体の反省・課題 等</p> <ul style="list-style-type: none"> 繰り返し行うことで、児童が活動に慣れてできることが増えてきた。 歩行箱の慣れてくると見なくなってきていたが、箱の高さを変えたり、大きさを変えることで足元を見ることが増えてきた。 歩行箱の活動自体は良いのだが、待っている時間が長くなってしまうのが課題である。
--